

* 虎尾元教授（大虎さん）のお嬢さん來台、虎尾教授の頃

天文台グラウンドの南東に大きなヒマラヤ杉が3本そびえている。この3本のヒマラヤ杉は昭和45年3月に同時に退官された広瀬、虎尾、長沢の3教授の記念植樹である。今年は昭和83年に当るから38年も経て大木になった。広瀬先生は3号-乙、虎尾先生は2号官舎にお住まいであった。このたび、1号官舎が三鷹市の「星と森と絵本の家（仮称）」に生まれ変わろうとしているが、1号官舎は、外観は往時の姿をとどめ、その一部は往時の畳部屋が残される事になっている。そしてその一部が当時の天文学者の住まいであった面影があるといいという意見があり、2号官舎にお住まいであった虎尾先生のご遺族に往時の什器類などが残っていれば、お譲りいただけないかと声をかけていた。

虎尾先生のお嬢さんから、虎尾先生が退官のとき、天文台職員から贈られたPZTの模型を天文台に寄贈くださったことから、この話に発展した。写真1が寄贈いただいたPZTの模型である。



写真1 虎尾先生退官時に贈られたPZT模型

虎尾先生は、天文時部の部長さんであった。天文時部は東京天文台で一番古い講座で、かつては経度課、保時課、報時課の3課があり、日本の中央標準時を守っていた。時刻を決めるための望遠鏡が聯合子午儀から写真天頂筒（PZT）に移行する頃にご活躍だった。報時の仕事は天文台から通信総合研究所へ移り、保時の仕事は水沢に移り、聯合子午儀の建物は取り壊され、1号子午儀の台のみが経度基準点として残されている。連合子午儀観測室のあった場所にはすばる解析研究棟が建ち、現在はかつての天文時部の面影は全くなくなり、その末裔たちはTAMA300で重力波の検出に挑んでいる。

広瀬、虎尾、長沢 3 教授退官の記念写真が写真 2 である。



写真 2 広瀬、虎尾、長沢 3 教授退官記念写真

そして、下の写真が記念植樹をしているところである。



写真 3 スコップを持った左が虎尾、中央が長沢先生



写真 4 中央が広瀬先生

この後、記念植樹は古畑先生、末元先生が行ったがその後は行われていない。



左の写真は、50mm バンベルヒ子午儀を使った経度測量時の写真であろう。この子午儀は、現在子午儀資料館に展示されている。虎尾先生は、光電子午儀の開発の研究をされていたが、当時のペンレコのスปีドでは、精度が眼視観測に劣り、実用にならなかったようである。

写真 5 50m バンベルヒ子午儀と虎尾先生



写真6 PZT 観測室、そして連合子午儀室、北研究棟が見える。

下の写真は、往時の写真天頂筒 PZT である。

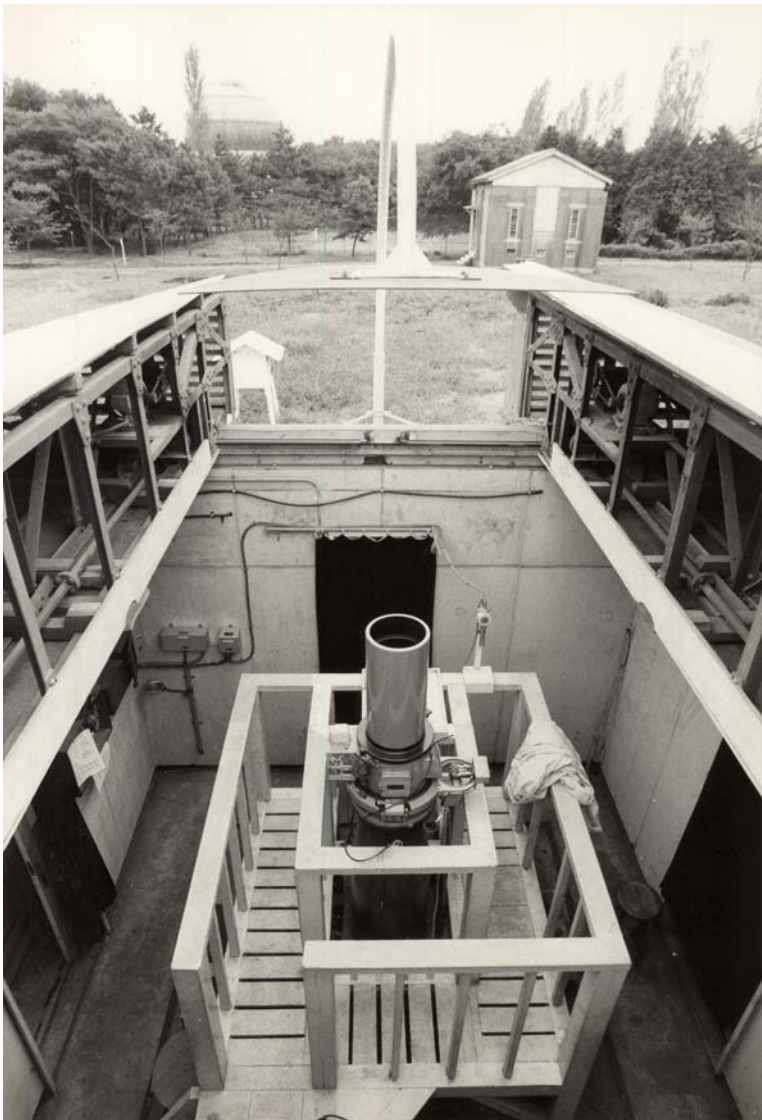


写真7 PZT

写真7 が屋根を開いた写真天頂筒 PZT 観測室である。南に 26 インチ赤道儀望遠鏡ドームが見え、その手前に現在の子午儀資料館（レプソルド子午儀室）が見える。

下の写真は、PZT の筒頂部、この部分が回転し、同じ星を 4 回撮影していた。

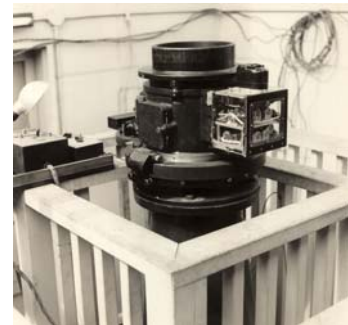


写真8 PZT 筒頂部

今回、虎尾教授のお嬢さんが「絵本の家」のために寄贈をご希望になったものは下記の品々である。

1. 官舎で使っていた木製本箱(上部ガラス戸、下部棚、虎尾さんの蔵書を含む)、
2. 油絵(1969年に裏門当たりを書いた自信作)、
3. 電気スタンド(木製)、
4. 文鎮(重厚なもの)、
5. 灰皿(象)、
6. 額(東大赤門)、
7. PZTに関する朝日新聞記事、
8. 測地観測に用いたドライバーセット、
9. 翡翠瑪瑙時計、
10. ガラスペン皿、
11. サイドテーブル、
12. テーブルクロス、
13. 煙草入れ、盆、
14. シガーケース、
15. 百人一首、
16. 竹の花入れ2個

彼女のお話では、畳の部屋に天文学の本が入ったこの本箱を置くことによって天文学者の雰囲気が出るとのことでした。

これらは一応、適当な時期に中桐がお預かりしておこうと思っています。